

千利狸の呟き

インターネットが発達したおかげで、アナログ狸も様々なデジタルの恩恵を受けている。今までは、アナログものは、骨董として、いかにも怪しげな専門店と称する所で、胡散臭さ満載の狸親父と化かし合いながら交渉しないと何も購入できなかった。ところが今や、ネットで世界中を探して、簡単に購入することができる。但し、ネットでは実物を実際に見ることはできないので、画像や説明だけで判断しなければならない。売っている方も、学者狸顔負けの知識を持っているものから、まるで分っていない素人狸、明らかにインチキばかりの化け狸と魑魅魍魎の百鬼夜行状態である。とんでもないガセを掴まされることもあるが、ありえないお宝が出てくることもあるので、ネットあさは止められない。

アナログものは、お宝とはいえ、そのまま使用できるものは少なく、修理が必要なことが多い。古い電気ものは、配線が手配線なので、自分で治すことができるが、プリント基板ものは細かすぎて、老眼もあり、修理困難なので、ネットあさりで、代替を探すこととなる。機械ものとなると、なかなか自分では手を入れられないので、修理狸を探すこととなるが、ネットを見れば、日本にもいろいろな修理狸がおり、重宝する。

お宝をみつけると他人に見せたくなくなるのは、収集狸のサガで、アナログ狸も少し前はホームページなるものを、いろいろと開設していたものだが、年のせい、アップデートが億劫になり、最近は、とんとご無沙汰だ。海外のインターネット・オークションの商品の説明に、詳しくはこのホームページを見ろ！と、勝手にURLを表示されたり、自分以外のホームページに写真が勝手に引用されたりしたものだが、まあ同じ穴の狸で大概知り合い（といってもネット繋がりしかないが）なので、ある程度は大目に見ていた。

最近は大學生狸のレポートに、インターネットからの無断引用が多くあり、それを見つけるソフトまであるらしい。それどころか、狸界の論文で

～ インターネットの功罪 ～

アナログ狸

も、カット&ペーストだらけの論文や、違法ダウンロードの写真を修整加工して論文に載せるやからまで、いるらしい。いかに狸が化かすのが得意とはいえ、他人のふんどしで相撲を取るとは如何なものか？

海外のインターネット・オークションを見ていたところ、ある商品の画像がすべてアナログ狸の写真を無断で使用していることに気が付いた。画像の無断借用は当然違反であり、実際にその商品を持っていない詐欺であることも多い。通常そのようなものを見つけたら、主催者に違反報告をするのだが、その商品の違反報告のページが動かないようになっていた。その出品者はアキバの業者らしく、ショップ登録されており、ショップ登録の際、金を払えば、違反報告ができなくなるオプションがあるらしい。地獄の沙汰も金次第、金を払えば不正も見逃されるオプション付きである。

日本の某ヤフオクでも、主催者アカウントが、不正なオークション価格つり上げを試験的にやっていたらしい、と問題になったことがある。インターネットの商品のサクラ評価は今では周知の事実で、評価の低い方から見た方が実態をつかみやすい。検索エンジンの検索順が広告料を払うと上位に来るという事実も常識となっている。

インターネット商売の胴元は広告料に依存しており、広告収入がなければ、サービスを継続できない。そこで広告収入を増やすため、あの手この手で裏操作をしてきたのだが、インターネットはオープンなので、その手口が次々に公開され、今では、スポンサーマークや広告マークで公に示し、居直っている。

インターネットの普及で世界が広がったように感じるが、結局は狸に見えるものは、モニターのウィンドウごしの世界だけだ。それよりは、森の切れ目から見える空の月でも見ている方が広い世界を感じられそうだ。